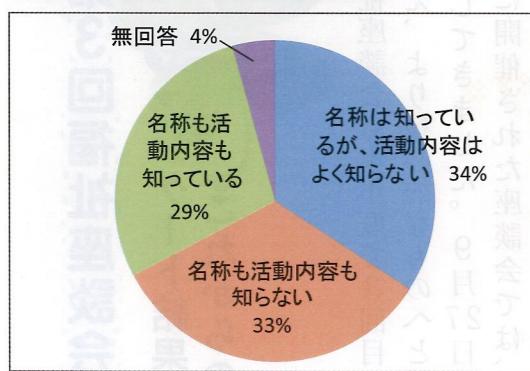
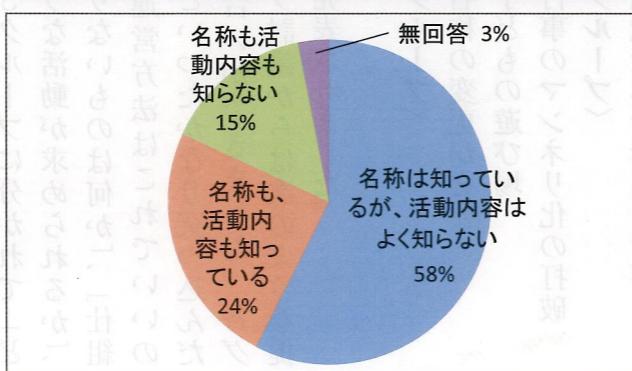


問16：近隣ケアについて



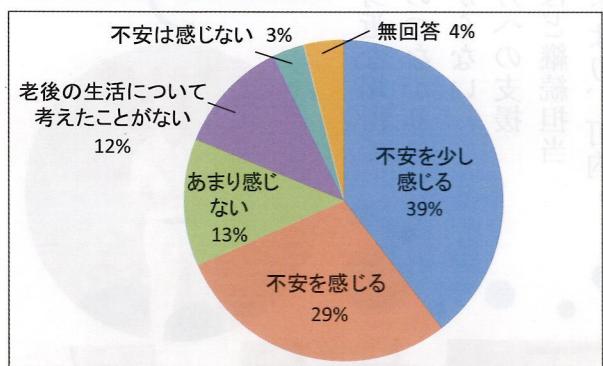
(問16) 近隣ケアの活動も、民生委員と同様の結果である。どちらの活動も見えにくいが、もっと認知されるよう支部活動の中での検討が必要であろうと思われる。

問15：自分の担当地域の民生委員について

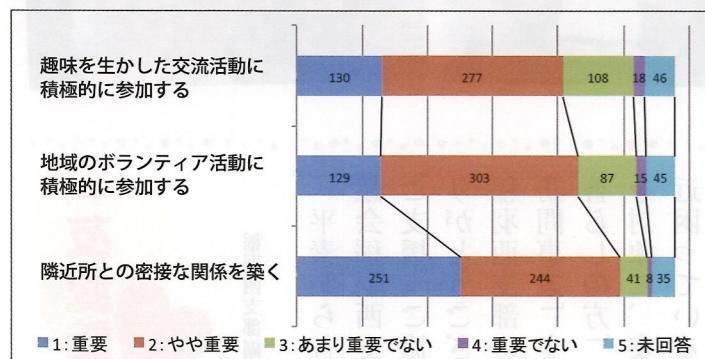


(問15) 地域において重要な役割を担っている民生委員の認知度が低い。少子高齢社会においてもっと民生委員の仕事が理解されていかないといけないことを痛感する。各種団体と民生委員との連携強化を社協としてもバックアップする必要がある。

問17：老後について



問18：ささえてささえられてみんなが主役のまちづくりを推進するために、あなたご自身の役割として、何が重要だとお考えですか？

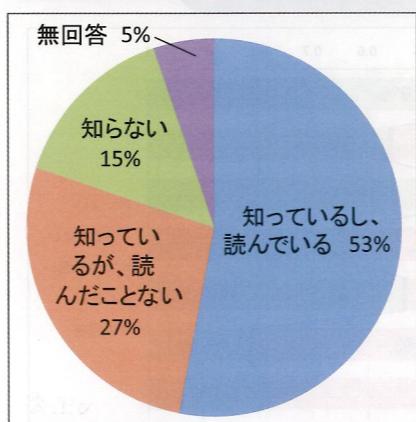


(問18) 最近、近所付き合いが少し希薄になっている中で、いい町づくりには、隣近所との関係をもっと密接にしていくべきだと85%の人が感じている。こうした隣近所の人たちと趣味に取り組んだり、交流を深めたりしたいと70%超が思っており、どのように地域福祉活動につなげていくかが問われている。参加の場づくりが喫緊のテーマである。

問19：自由記入欄

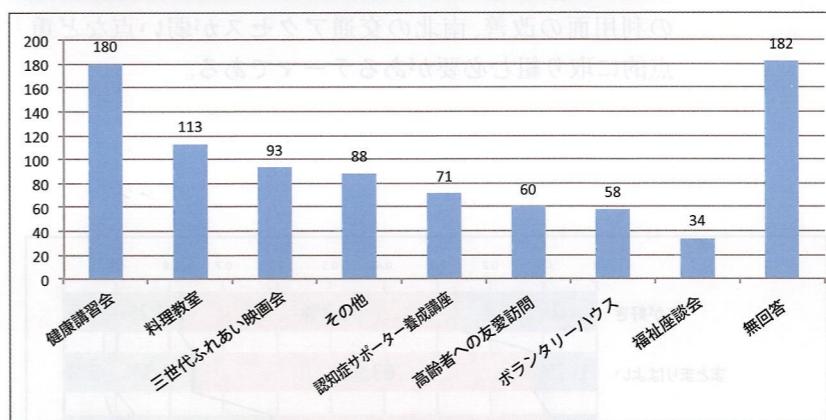
(問19) 自由記入欄には皆さんから沢山の提言、要望、意見を寄せていただきました。ここでは紹介できませんが、今後の支部の活動に生かしていきたいと思います。この結果は私たち稻羽西支部の宝物です。大切に活用させて頂きます。アンケート調査にご協力いただきました皆様にあらためてお礼申し上げます。

問10：稻羽西だよりの認知度



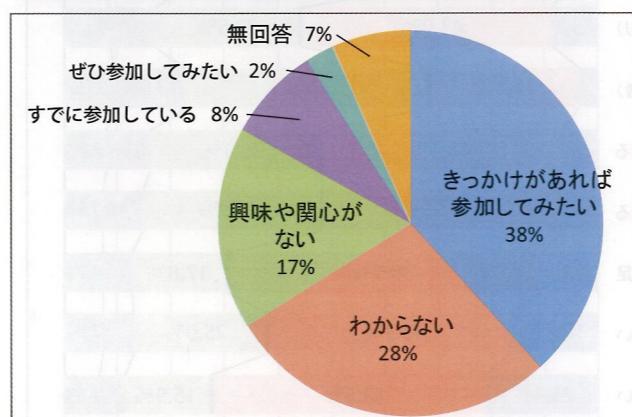
(問10) 「稻西だより」はそこそこ読まれているが、速報性やより多くの情報を提供するような改善が要求されていると感じる。親しみやすさも考慮し、早急に広報紙のタイトルを変えていきたい。

問11：稻羽西支部の事業で参加したいもの

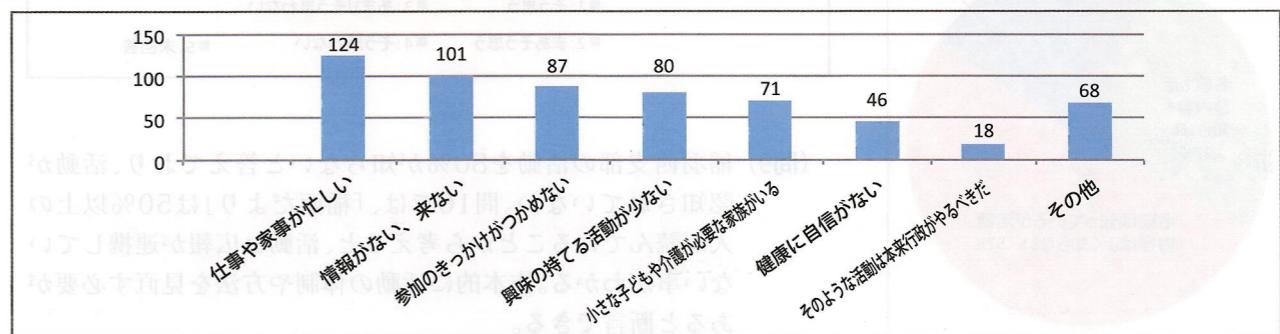


(問11) 健康は一番の関心事であり、シニアクラブ等の団体や町内のクラブ等と連携して、開催回数を増やし、日常的な活動になるよう展開していくかねばならない。町内での小さな集まりに対しても、費用面の支援等も取り組む必要がある。

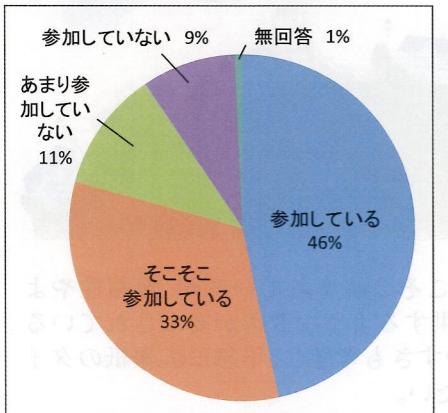
問12・13：ボランティア活動について



(問12・13) ボランティア活動に参加したい人は結構多いが、キッカケや情報が不足して参加できていない。呼びかけ・PRが必要で、ここにも広報の役割がありそうである。活動はしたいが、役員があたるのにはいやだという人が結構多いと聞く。気持ちよく活動できる土台作りがまだ必要なかもしない。



問6：町内活動への参加

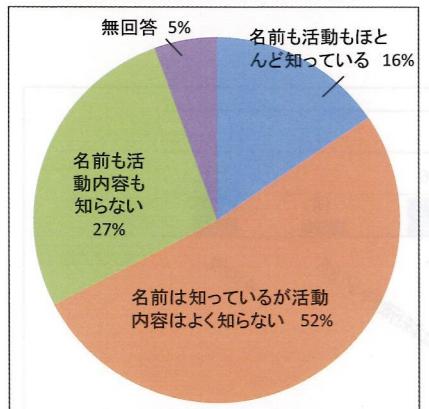


(問6) 町内活動へは、そこそこ参加しているを含め80%の人が参加しており参加率は高い。ただ町内を超えた活動、どんな気持ちで参加しているかも捉えていかねばならない。

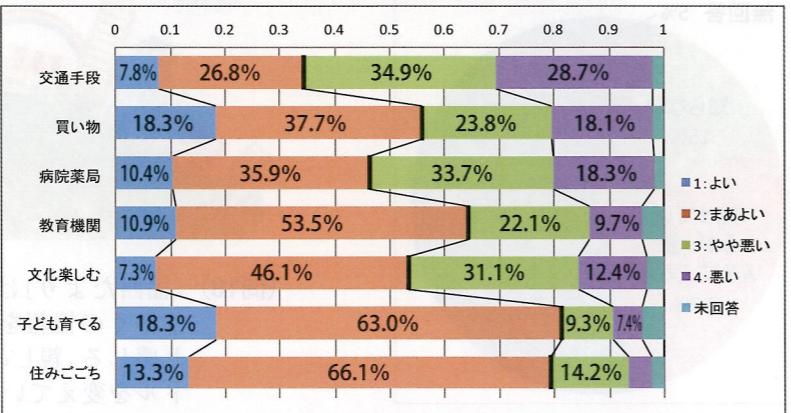
問8：稲羽西校区についてどう思いますか？

(問8) 障害のある人が住みやすいかという点が極めて低い評価である。公民館のトイレなど、いままであまり検討されてこなかったことが浮き彫りになっている。先を見据えた取り組みがこの地域には必要ではなかろうか。

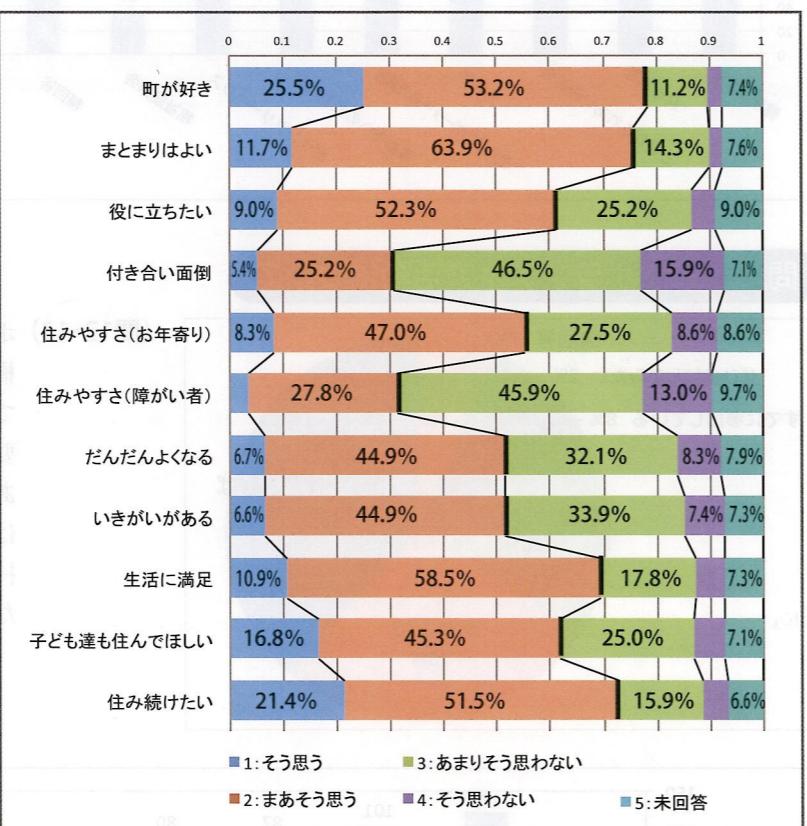
問9：支部社協の認知度



問7：稲羽西校区における生活のしやすさ



(問7) 生活する上での課題は、交通手段が一番満足度が低い。車がないと非常に困る地域である。今後ふれあいバスの利用面の改善、南北の交通アクセスが弱い点など重点的に取り組む必要があるテーマである。



(問9) 稲羽西支部の活動を80%が知らないと答えており、活動が認知されていない。問10では、「稲西だより」は50%以上の人人が読んでいることから考えると、活動と広報が連携していない事がわかる。抜本的に活動の体制や方法を見直す必要があると断言できる。

福祉座談会も本年度で3回目を迎える、より核心的なものへと展開してきました。9月27日（土）に開催された座談会では、「アンケート調査を受けて、これまでの支部社協活動」と題して、3グループに分かれて「どのような活動が求められるか」、 「足りないものは何か」、「仕組みや運営方法はこれでいいのか」といったかなり突っ込んだ話し合いができました。各グループ討議からは次のような提案が発表されました。

Aグループ

- ・名称の変更が必要
- ・子どもの遊び場
- ・行事のマンネリ化の打破

Bグループ

・地域全体で行える行事

Cグループ

- ・身近な講座を身近な場所で
- ・町内同士の横のつながり
- ・相談窓口がわからない
- ・担当手は3年ほど継続担当
- ・大きなイベントより、町内単位で絆を強く
- ・4月の自治会総会で社協活動のPR



平素から各務原市社会福祉協議会稲羽西支部の活動等には、ご支援・ご協力を頂きましてありがとうございます。今年度の稲羽西支部の事業として「友愛訪問事業」を取り組み、「一人暮らしの方」「寝たきりの方」を対象に、安否確認と共に「最近困っていること」など少しでも皆さんのお望に応えられるよう、と、民生委員や近隣ケアグループの方により各家庭を訪問させて頂きました。これから、ますます高齢化が進む時代になります。これからも民生委員や近隣ケアグループの方と一緒に協力し合つて住みやすい地域になるよう努力してまいります。これからも皆様方のご支援・ご協力を宜しくお願いします。

稲羽西支部副支部長 可児 正則

「友愛訪問事業」について

第3回福祉座談会を開催

テーマ『これからの支部社協活動』

アンケート結果を受けて